

シンガポールの少子化対策 の授業

「アジアンスマイル」NHK の番組より

2009.9.26

紹介： 丸山秀一

シンガポールは札幌市の面積の半分ほどの小さな都市国家であり、人口密度も高く、環境汚染も進んで、政府は人口増を押さえるための教育と医療を行ってきました。一党独裁のシンガポールでは、政策はすぐに徹底され、出生率は 1.29 で、この 20 年間で半分になってしまいました。

すると政府は、今度は出生率低下が社会に及ぼすマイナス面を心配し始め、今度は少子化対策を始めたのでした。



PEOPLE'S ACTION PARTY

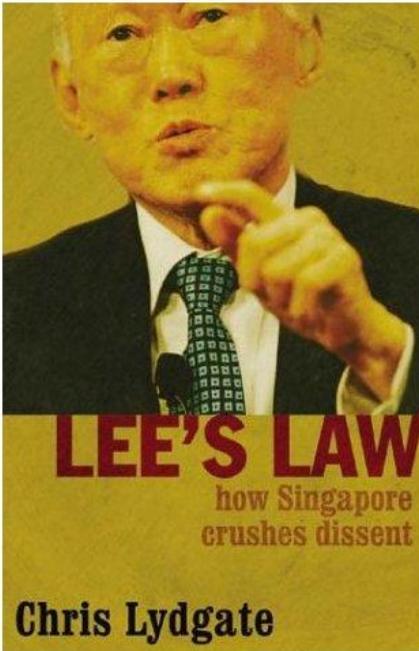
人民行動党

【問題】

少子化対策のため、高校で「ある授業」が選択教科として導入されましたが、それはどういう授業だったでしょうか。

予想

- ア 愛国心教育
- イ 出産育児教育
- ウ 性教育
- エ 恋愛教育
- オ そのほか



『リーの法則 シンガポールはいかにして反対意見を葬り去るか』

恋愛教育

それは恋愛の授業です。シンガポールでも晩婚化が問題となっており、男女交際のノウハウを授業としてやっているのです。その内容は、「愛と性」「男女の違い」から「デートの仕方」と具体的なものばかりです。恋人のいない生徒だけでなく、すでに恋人のいる生徒にも人気があるそうです。国が率先して、男女交際を勧めているわけです。

政府は「恋愛マニュアル本」も発行しています。内容は、「デートの時に割り勘にするかどうか」「デートの服装は何かよいか」という具体的なものです。また政府主催の「お見合いパーティ」も開催されています。

授業の内容

半年の恋愛授業の最初の時間のテーマは「出会いのチャンスをつかめ」として、「スピード・デート」についてです。「シンガポール人は忙しくて通常のデートをする時間がない」そうです。スピード・デートは、欧米で一般的なカップリングの技法です。ボクは、カウンセリング講習会で、これをやらされたことがあります。

ふたつ目のテーマは、「目がものをいう」として、「アイコンタクト」の授業です。表情豊かな人は魅力的に思えるのです。ボクは、生徒さんたちと話すときは、いつもオーバーな表情をしていますが、それが効果的だったようです。

三つ目のテーマは「愛を阻むもの ロミオとジュリエット」です。シンガポールは多民族国家であり、結婚には宗教の問題もあ

るというわけです。

【問題】

シンガポールのカップルに人気のデートスポットは、どこでしょうか。

予想

- ア 結婚式場巡り
- イ ボウリング
- ウ カラオケ
- エ そのほか



答えは番組で・・・。

番組では全く触れられていませんが、シンガポールのこうした少子化対策は、高学歴者のみに向けられたものです。シンガポールでは、中学校入学の段階で、子どもは、標準コースとエリートコースに分けられます。番組で登場した高校は、「二番目のエリートコース」といえるものです。

シンガポールでは、高学歴者は多産を義務づけられ、低学歴者は避妊を勧められています。かつてリー首相は「貧しいものにはたくさん子どもを持たせないようにしなければならない。劣ったものがたくさんいないような社会にするための第一歩を踏み出さなければ、将来後悔するだろう」と述べていました。

リーは「優秀な子は優秀な親から生まれる」と信じていたのです。リーは「教育を受けた女性がもっと子どもを産み、人口構成を変えねばならない。次の世代が才能のないものばかりにならないようにしなければならない」として、大卒の母親に多産を奨励しました。「優秀な子を産むのは国民としての義務」になっているのです。そして、大卒の母親には有給休暇や税金払い戻しなどの優遇措置が与えられ、産まれた子どもにはエリート学校への入学が優先的に認められることになりました。

さらに政府は「世帯月収 1500 ドル以下で学歴の低い母親には避妊手術を奨励し、手術を受ければ 1 万ドルを支給する」としています。

また、政府は国立大学の合格基準を引き下げ、男子学生を多数入学させて、出会いの機会を増やそうとしています。さらに 50 万ドルの予算で社会開発局設置し、高卒時の成績が一定以上の国民を対象にお見合い事業を行っています。

リー首相は「どのような社会であれ、エリートがいなければならぬ。大衆を先導し、しかも最初に倒れる危険さえいとわない、責任のあるエリートが必要である。エリートをいかに生み出すか、そのシステムを作るのだ。人の行動の80%は遺伝によって決定され、20%が教育によって決定される。優秀な両親からは優秀な子どもが生まれる。無責任な社会的義務不履行者が何人もの子どもを作り、政府に対して食料、医療、住宅、仕事の提供を要求すると経済成長を阻害する」と述べました。すべては「国のため」というわけです。

事実上一党独裁の政府は、国民生活を徹底的な管理下に置いています。公共の場での長髪やガムなどは禁止で、多額の罰金が科せられます(ガムの場合は2年間以下の懲役と5000ドルの罰金)。こうした国家管理に反対する者は、治安維持法で取り締まられることになります。

このような抑圧的な政治体制を嫌って、多くのエリート層が海外へと移住しています。人口が日本の30分の1のシンガポールで、年間の海外移住者が日本の3倍以上いて1万人を超えているのです。そして、こうしたエリートの流出が、政府にさらに少子化対策へと向かわせているわけです。

典拠文献

- ・「シンガポール発 恋愛授業」NHK
- ・エンカルタ 2009
- ・丸山秀一「シンガポールという国」レポート、2008

「問題」の答えは「ザリガニ釣りデート」です。純朴!!!